

公益財団法人宮崎文化振興協会

平成26年度 第2回理事会議事録

1. 日 時 平成27年3月17日(火) 午前10時～午前11時45分

2. 場 所 宮崎市宮崎駅東1丁目2番地2 宮崎科学技術館 多目的ホール

3. 出席者 理事現在数 10名 定足数 6名

出席者 田原健二 有馬明雄 大森郁子 甲斐亮典
片野坂千鶴子 菊地照代 隈元高広 中別府尚文
森本雍子

以上9名

(定款第31条第2項の規定による定足数を充足)

監事出席 永井淳生

以上1名

同席者

(公財)宮崎文化振興協会事務局 次長兼経営戦略課長 白田憲光

他 12名

計 13名

4. 議案 第1号議案 平成27年度事業計画書(案)について
第2号議案 平成27年度収支予算書(案)について
第3号議案 平成27年度施設管理運営事業積立金の取崩し(案)について

5. 報告事項 職務執行の状況について

6. 議長選任の経過

司会が開会を宣した。次に定款第33条第3項により理事長田原健二が議長を務めること及び定款第31条第2項により会が有効に成立していることを告げ、議長の進行により議案の審議に入った。

7. 議事の経過要領及びその結果

議長は、定款第34条第2項に基づき、理事長田原健二と監事永井淳生が議事録署名人になることを告げ、次の3議案及び報告事項について審議した。

(議案)

第1号議案 平成27年度事業計画書(案)について

平成27年度事業計画書(案)について、事務局及び各館長から説明を行った。
本議案に関連して次の質疑応答があった。

(隈元理事) 別紙資料1平成27年度事業計画(案)について、確認も含め質問する。
別紙1の1ページ3つの方針第2項「地域活性化への貢献」における「地域のコーディネート的な役割を担う」とは、具体的に説明をお願いしたい。併せて2ページ取組み内容第3項「小中学校、地域自治区(まちづくり推進委員会)との連携(2)」において「協働により地域に密着した施設運営を図る」についても

説明が欲しい。

- (白田次長) 2点のご質問に共通する事業として、「回想法による福祉連携推進事業」、「地域ミュージアム化構想推進事業」、および「出前授業・講座開催事業」が、地域活性化への貢献事業として位置づけ次年度も積極的進めていく。出前授業・講座開催事業では、学校の家庭教育学級や地域まちづくり推進委員会など、地域の団体からの申し込みも多く、事業を展開した。
- (森本理事) 雛人形展を拝見し、地域の博物館として地元の歴史を感じられた。合併後旧町域のことをまだ知れていないことが多くある。地域の歴史をもっと知ってもらう手だて、歴史の顕彰を今後繰り返し取り組み、周知徹底をしていくことが地域の宝物を守ることにつながるのではないかと思う。
- (片野坂理事) 平成25、26年度「～音と出会おう～子どものための音楽会」は、0歳児の親子連れからを対象としたコンサートで、各館において実施され、0歳児の子どもを連れた方々が多くの施設を訪れる機会になったのではないかと思う。各館0歳児から高齢者まで多様な年代に対応した事業に取り組んでいると思う。地域の団体ともよく関わっていることを、事業に関わるなかで改めて感じた。別件、宮崎市民プラザの新規事業「市民プラザキッズアカデミー」だが、みやざき子ども文化センターにおいて「キッズアートアカデミー」という講座名で既に取り組みをしており、名称が類似している。活動自体はホールにおいて、子どもたちが体験・実践すること非常に大切な事業と考えているが、混乱のないように事業名の検討をできればお願いしたい。
- (木元館長) 名称がかぶらないよう、協議させていただきたいと思う。
- (大森理事) 子ども連れの方など宮崎に来られた方に対し、空港などで各施設どのようなプログラムが行われているかや、宮崎で子ども連れてどこに行けるかという情報の周知範囲を広げもらえるとういのではないか。それがリピートに繋がればと思う。
- (田原理事長) 今のご意見を伺い、広報範囲も今後検討したい。
- (永井監事) 先般の議会において、「みやざき歴史文化館を始め歴史3館について、学校教育においてこれらの資料館を積極的に活用するとともに、より魅力ある企画展を展開されるよう求められたい」という意見書が出された。各事業よく取り組んでいると思っているが、一般や議員にはまだ伝わっていないのかとも感じた。いい事業をやっているのに、発信をもっとやっていく必要があるかと思った。別件、大淀川学習館新規事業「嫌われいきものの展示」について、事業内容に異論はないが、仮称ではあるがタイトルについて、生き物側にとっては意味がある形態をしているもので、人間の主観での「嫌われ」の表現はいじめなども連想してしまうため、タイトルについては再考が必要かと感じた。あと1点、各歴史館実施の文化財巡りの事業において、名称が館ごとに異なるが「文化財史跡を巡る」という表現は史跡も文化財であり資料館としては文化財の体系を認識し、整理が必要と感じた。
- (清山館長) ご意見にもあったとおり、皆が怖がるものにも生態があり意味があることを伝えることが本展のねらいである。ご意見賜りタイトルについて再考したい。
- (大倉館長) ご指摘のとおりであり、各館の講座への思いも考慮しつつ統一できるところを検討したい。
- (甲斐理事) 「宮崎県文化行政要覧」という冊子がある。国、市町村指定の文化財が全て集約されており、指定名称で掲載されている。史跡講座など開講する際はこれを見て記載等するとよい。

質疑応答後、議長が諮ったところ、特段の異議もなく満場一致で可決した。

第2号議案 平成27年度収支予算書(案)について

平成27年度収支予算書(案)について事務局から説明を行った。
説明後、議長が諮ったところ、特段の異議もなく満場一致で承認可決した。

第3号議案 平成27年度施設管理運営事業積立金の取崩し(案)について

平成27年度施設管理運営事業積立金の取崩し(案)について事務局から説明を行った。

(隈元理事) 科学技術館および大淀川学習館の設置物について、設置後のランニングコストはどのようなものか。

(上口課長補佐) 科学技術館については、1・2階の全ての展示物の保守点検に含むこととなっているため、今回の設置物に対する経費は見込んでいない。ただし、プロジェクターでの映像投映のため、ランプ交換が年1回発生する。年7万円を見込んでいる。大淀川学習館については、通常の飼育にかかる餌や電気台は発生するが、ろ過材など他の水槽との互換性があるものを予定しており、特別な維持経費は見込んでいない。

審議後、議長が諮ったところ、特段の異議もなく満場一致で可決した。

(報告事項)

報告事項 職務執行の状況について

次長兼経営戦略課長 白田憲光より、前回定例理事会の開催日(平成26年6月10日)以降の職務執行状況について説明があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、午前11時45分に司会が閉会を宣し、解散した。

上議決を明確にするため、本議事録を作成する。

なお、以上この議事録が正確であることを証するため、理事長及び出席した監事は次のとおり署名する。

平成27年3月 18 日

公益財団法人宮崎文化振興協会 平成26年度 第2回理事会

理事長 田原健二

監事 永井淳生